



兵庫県神戸市東灘区
労働者協同組合甲南げんき村

あなたが主役の 楽しいコミュニケーションスペース

甲南げんき村

ふれあい喫茶
コーヒー・紅茶・お茶
スイーツ
¥200(お菓子付き)
甲南げんき村

カフェ

営業中

地域の10数団体の
こどもから、
誰でも利用でき
2024年6月1日よりスタート





阪神大震災から約30年、神戸のまちは大きく復興したものの、近年は全世代で孤独・孤立が進行し生活課題が顕在化している。こうした状況に、兵庫県神戸市東灘区にある「労働者協同組合甲南げんき村」（代表・中村保佑さん）は、地域の誰もが気軽に集い、元気にいきいきと暮らせる地域づくりの拠点として、「コープリビング甲南」の一角で2024年6月から本格的に活動を開始。地域の16団体が参加・協同して運営する形をとり、喫茶や講座、生活支援などを通じて、地域のつながりを育む場となっている。

1月中旬、げんき村のイベントとして、参加団体の就労継続支援B型事業所「ぼこあぼこ」が主催する「突き立てお餅とポッチャ体験」のイベントが開かれた。炊き上げたもち米を手に取りながらみんなで丸め、出来立ての餅を味わいながら交流する。その傍らでは「ポッチャ体験」も行われ、施設利用者とスタッフが一緒に予行演習をして競技を楽しむ。

ぼこあぼこの代表・加納郁久さんは、「地域に障がい者と触れ合う場をつくりたいと職員から声が上がりが企画を中村さんに持ち掛けた」と話す。普段は週2回、施設外就労の形で、げんき村の喫茶で施設利用者がコーヒー提供などの仕事を行い、接客をする中で地域との関わりを大切にしている。加納さんは「多様な団体が一つの拠点に集まっており、人と人との距離感がちょうど良い。いつまでもあつてほしい場所」と、地域にげんき村がある心強さを挙げる。

屋近くになると、げんき村の広々としたレストスペースでは、たくさんの人が思い思いの時間を過ごしている様子。珈琲を飲みながら新聞や情報誌に目を通す人や、月1000円で団体や個人が情報発信できる「ふれあいボックス」を覗く人など、地域の情報を知るきっかけとなっている。なおこの日は、げんき村参加団体の「特定非営利活



動法人ひがしなだコミュニティメディア」による「MEDIA ROOM」の番組収録がげんき村の事務局で行われ、地域の情報がインターネットでライブ配信された。

中村さんから「甲南げんき村スタンプカード」を見せてもらう。1日1回、挨拶や手伝いなど「小さなボランティア」を行うとスタンプとアメがもらえ、スタンプが10個たまると表彰状や絵本など景品が贈られる。「子どもたちはスタンプとガチャが好き」という子育てサポーターのアイデアから生まれた大人気の企画で、子どもが親を連れてげんき村を訪れる姿も見られた。

この日は「手作り市」も開かれ、かばんや雑貨など多くの手作り品が並んだ。担当の大村さんが毎週土曜日に開催し、手作り品の委託販売を行う仕組みで、おもちゃ病院を担当する人が制作したおもちゃや、90代高齢者の手作り小物品などもあり、10人ほどの出品があるという。毎週の手作り市を楽しみにする常連客も多く大村さんと話し込む様子も見られた。

甲南げんき村の設立の背景について、代表の中村さんは長年続けてきた「東灘こどもカフェ」の経験を挙げる。15年にわたり子どもや地域の居場所づくりを行ってきたが、単独の団体の活動だけで地域の多様な課題にこたえる難しさも感じていた。そこで、複数の団体が集まり協同で運営する拠点をつくろうと、新しい法人格となる労働者協同組合を立ち上げ、活動拠点となるコープリビング内にあるスペースをコープこうべと賃貸契約し、甲南げんき村をスタートした。

げんき村には現在地域の16団体が参加し、主に団体会費やふれあいボックスの利用料などで運営が支えられている。げんき村の喫茶をはじめ、参加団体の各種講座は年間



げんき村の大きな特徴として、年末年始以外の年間360日の開設が挙げられる。中村さんは「毎日開くことが地域の安心感につながる。スタッフだけではなく、ボランティアや利用者の力があってこそ実現できている」と話す。

中村さん自身、広告代理店や出版社での仕事を定年後に地域活動に関わった。自分の居場所がなかった経験が地域活動の原点となった。これまでの経験から、「地域活動の担い手や利用者が次々と入れ替わり変化し続けることが活動を継続する力になる」と中村さん。げんき村は、単なる居場所ではなく、それぞれが役割を見つけて、地域社会に一步踏み出す場所でありたいと願う。

約500回開催されるほか、こども塾、生活支援など年間を通じて事業が行われ、地域住民一人一人が気軽に参加できる仕組みを作ってきた。また、自分の特技から何かを企画して実践できる、新しい挑戦の場ともなっている。

げんき村では、地域住民の生活支援として「便利屋くらしの応援隊」の有償ボランティアも行い、家事やお出かけ、片付けで困ったことなど、日常的な困りごとにも対応している。昨年から今年にかけて、内閣府の委託事業で困窮家庭への食料や日用品の配布も実施した。げんき村スタッフの英賀明子さんは「利用者の約半数がシングルマザー世帯だった。配布の際には悩みを聞く時間も大切にした。孤独を感じている子育て世代のケアにつながったのでは」と話す。高齢者からは「げんき村があるから助かっている」という声もいただくそうだ。

【連絡先】労働者協同組合甲南げんき村
 兵庫県神戸市東灘区甲南町2-1-20
 コープリビング甲南1階
 TEL：090-7701-6393
 メール：konangekimura@gmail.com